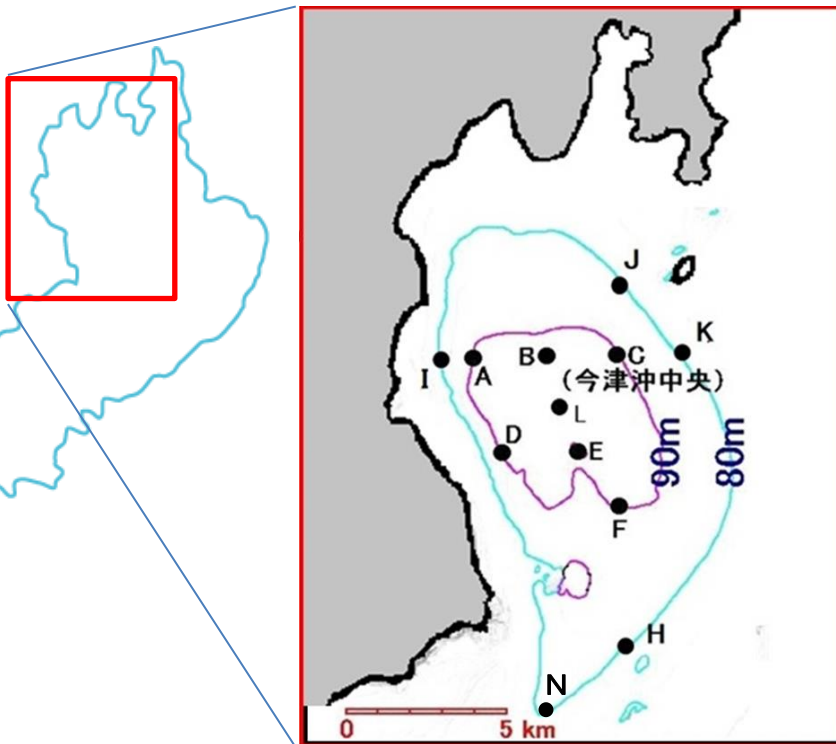


北湖底層DO調査結果（速報）

すいおんやくそう

北湖では、例年春季から初冬にかけて水温躍層が形成され、上層と下層の水の対流がなくなるため、底層の**溶存酸素(DO)**が低下し、晩秋に最も低くなります。その後、冬季に湖水の全層循環が起こり、底層まで酸素が供給されDOが回復します。滋賀県では、北湖の底層DOの状況を把握するモニタリング調査を実施していることから、その結果をお知らせします。

調査地点



今津沖第一湖盆中央(水深90m)
およびその周囲の調査地点

C、F、L点: 定期調査

A、B、C、D、E、F、L: 補足調査

湖底直上1mを調査

令和5年度の北湖底層DO調査結果（速報）

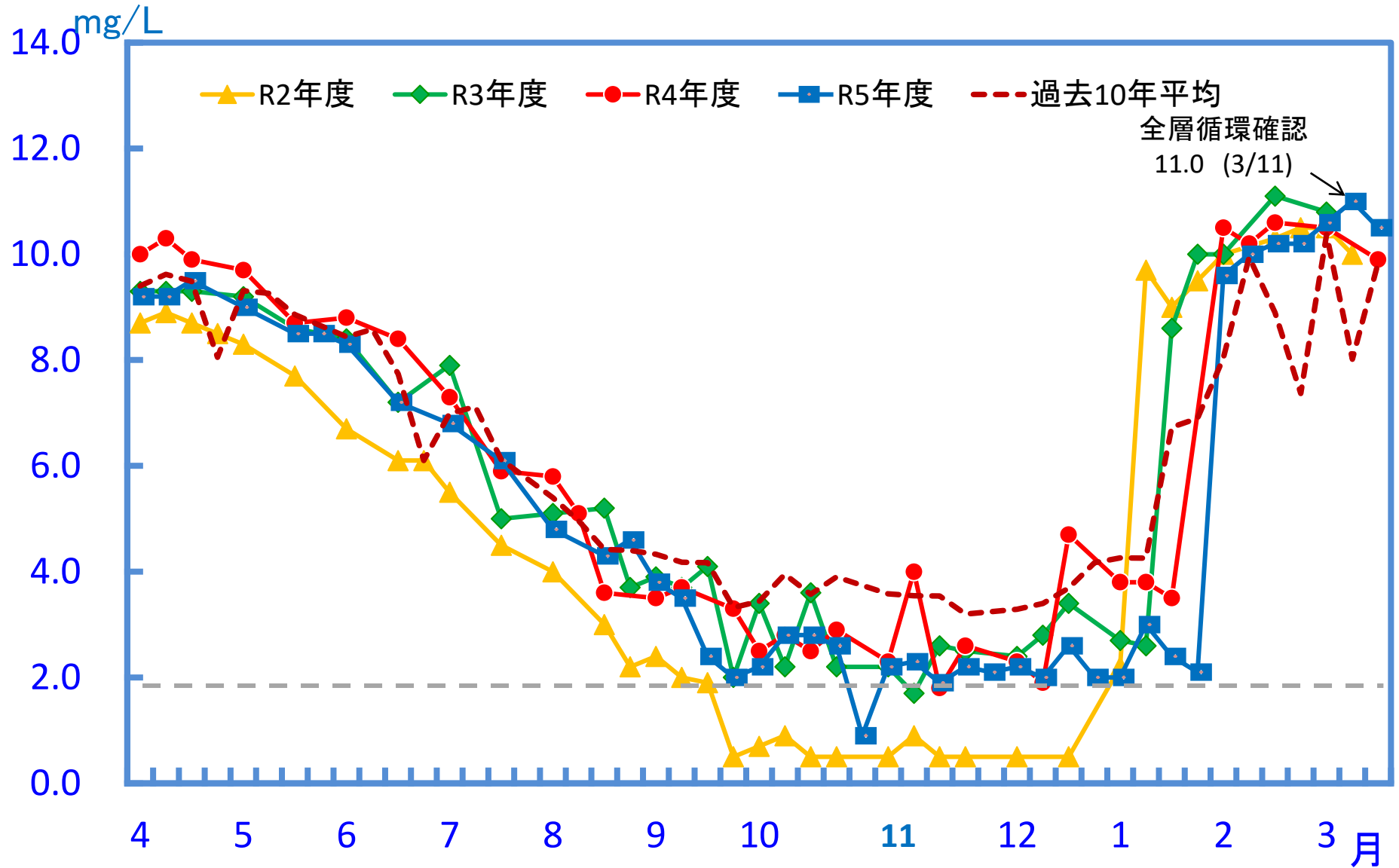
単位:mg/L

調査地点	調査日	12月				1月				2月				3月		
		12/4	12/11	12/18	12/25	1/9	1/17	1/22	1/30	2/5	2/13	2/19	2/29	3/5	3/11	3/19
A			0.6		1.9			1.4	2.4		2.0	9.4	5.9	7.7	10.7	
B					3.0				2.3		2.1					
C(今津沖中央)		2.2	2.0	2.6	2.0	2.0	3.0	2.4	2.1	9.6	10.0	10.2	10.2	10.6	11.0	10.5
D			2.8		2.8			2.3	2.4		7.6	9.3	7.2	10.2	10.6	
E					2.2				2.9		2.9					
F		2.1	1.8	2.3	1.8	1.9	3.3	2.4	2.7	2.3	9.8	10.0	9.9	10.7	11.0	10.8
L(第一湖盆中央)		0.7	0.6	1.7	2.2	1.5	2.3	2.5	2.0	2.0	2.0	3.2	7.2	9.3	10.6	10.5
K(水深約80m)																
H(水深約80m)					3.3											
I(水深約80m)																
J(水深約80m)																
N(水深約80m)																

注1：表中の網掛けは、生物への影響が見られる目安である2 mg/Lを下回った結果を示しています。

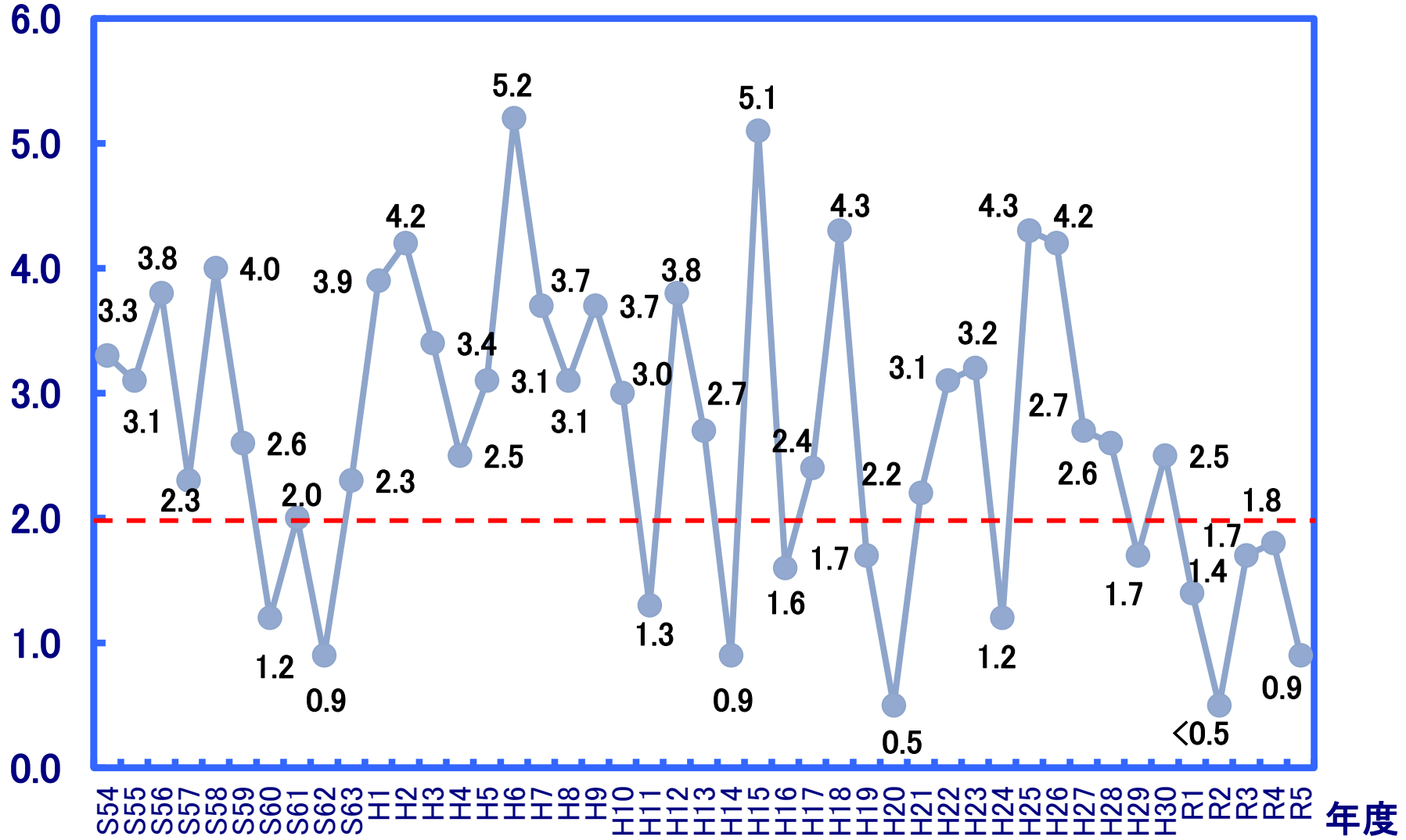
注2：風などの気象条件や底層DOの状況に応じて、地点数や範囲を変更することがあります。

C点における底層DOの経月変動



C点における底層DOの年度最低値

(mg/L)



年度

※H18以前は月2回、H19以降は月3～4回の調査頻度

データ: 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター